

コノハナサクヤ姫

解説

むかし、人は、人間と人間を超えた、より大いなる何ものが（宇宙、神）とつながり、また、人間と自然、人間と人間とのつながりを大事に生きていた。

いま、政官・財界レベルの倫理性の崩壊、残虐な犯罪の増加、市民レベルでは家庭崩壊、学校崩壊など、根本的な精神性の崩壊が進行している。これは、本来人間が持っていた目に見えないものへの畏敬の念、あるいは愛というものが欠落してしまったからである。

この創作ミュージカル「甦る古代ロマン」では、埼玉県名発祥の地・埼玉で行われている火祭りをモチーフに、人間を超えた大いなるものとのつながりの大切さ、人間同士の本当の愛の姿を歌、踊り、映像、音楽を通して伝えたいと企画されたものである。

一部のプロローグ「水・土」では、宇宙からの使者が、埼玉の地に降り立つ。そして、人間は、地球誕生以来、46億年の歴史を抱えて生きていることを気づかされるのである。なぜならば、私たちの身体の70%をしめる水分は、水素原子で構成され、その原子は何十億年もの間、形を変え生き続けてきたのである。そして、我々の先祖は、無意識のうちそれらのことを知り、動植物と共存し、相互依存して生きてきたのである。

二部の「火」では、古事記に伝わる「天照大神の孫にあたるニギノミコトとコノハナサクヤ姫が一夜の交わりで妊娠したのを疑われ、その疑いを晴らすために屋敷に火を放って、その中で海幸彦、山幸彦を産んだ」と言う故事をモチーフに、人間世界の醜さ、争い、情念の世界を断ち切っていく様を表現するのである。

そして三部のエピローグ「風」で、コノハナサクヤヒメが、子どもを授かり、母としての至福の喜びを実感する。そして、今ここに生きている私と宇宙とがひとつにつながっていて、私たちの魂は不滅であることを知る。また、すべての命の価値・尊厳をあらためて自覚させられるのである。すると、この世は静かな争いのない平和な明るい世界が甦ってくるのである。

記役

総合プロデューサー	橋島 伸悦 (行田FC)
音楽プロデューサー	松井 敏昭
舞台監督	松村 政行
音響・照明	エンボリック
ナレーション	中里 貴子
特別ゲスト	西崎 緑 飯西 良太
創作ダンス	モニカ・ケーコフ ポー・アウデンダイク ダンスカンパニー
演奏 シンセサイザー	Binsho
キーボード	未 来
太 鼓	佐野 幸二
尺 八	渡辺 正樹
津軽三味	柄坂 十一
岩 笛	甲 斐

特別ゲスト

にしざき みどり
西崎 緑
日舞 西崎流新流家



3才の時、日本舞踊で初舞台。7才にして「小さなプリンス」で歌手デビューする。田端義天氏とのデュエット曲「わんねん舟唄」が大ヒット。子役としても数々のテレビドラマ・CMに出演する。14才の時、平尾昌晃氏と出逢い「旅愁」(TV番組・必殺シリーズ「盗聞仕留人」の主題歌)が空前の大ヒット、ミリオンセラーとなる。また、同必殺シリーズにレギュラー出演し女優としても活躍する。舞台・テレビ等に数多く出演する一方、日舞の振付けも手掛ける。歌手また女優として舞踊家にと幅広く、今までにない新しい分野にも挑戦し、名前もみどりから緑に改名。新しい西崎緑としてスタート。

※都合により一部変更になる場合がございます。ご了承下さい。